



青木さんたちは、「地域の産業を伝える」というテーマで、学級でグループ発表を行います。次の【新聞記事】と発表内容を決めるための【話し合いの一部】を読んで、あとで問い合わせなさい。

**【新聞記事】**

2020/07/07 北海道新聞朝刊地方（北見・オホーツク） 14ページ（記事は再編集しています）

**オホーツク REPORT**

## コンテナ苗で作業省力化

**【遠軽、湧別】**林業現場で深刻になっている労働者の高齢化と人手不足の解決策として、造林作業を省力化する「コンテナ苗」の普及が遠軽町や湧別町で進んでいる。コンテナ苗は、筒状の容器にヤシの木の纖維などが混ざった培土を入れ、カラマツやトドマツなどを裸苗より効率的に育てることができる。国有林を管理する網走西部森林管理署（遠軽町）は、コンテナ苗の優位性を調べる試験や見学の場を設けるなど、積極的に普及活動に取り組んでいる。（笠原初菜）

道の林業労働実態調査によると、2017年度の網走西部流域（紋別、遠軽、湧別など7市町村）の林業労働者における60歳以上の割合は35・5%、新規就労者はわずか18人と、労働力の高齢化や働き手不足が浮き彫りになっている。そんな課題を解決する方法として期待されているのがコンテナ苗だ。コンテナ苗は室内で育てるため、水や気温を機械で管理でき、雑草の除去作業なども不要になる。乾燥に強く、土壤

になじみやすいことから、大きく育つ割合が裸苗よりも高いという利点もある。また、森林管理署の工藤浩樹総括森林整備官によると、作業の平準化と雇用の安定にも寄与するという。培土が付着した状態で山に植え付けるコンテナ苗は、春と秋に植え付ける従来の裸苗と異なり、夏にも植え付けができる。1年を通じて作業員が一貫して携われるようになるため、雇用の安定化や若い労働力の定着も期待できる。

森林管理署は、裸苗と比べたコンテナ苗の優位性を調べる夏季植栽試験を一昨年に開始し、林業関係者を集めた見学会も開催。工藤整備官は「見学会などでコンテナ苗を実際に見てもらうと評判はいい。まず国有林で実績を出し、民間事業者への普及に取り組みたい」と先を見据える。

遠軽町の林業、佐々木産業（管野伸一社長）は、コンテナ苗の育苗施設を2017年から稼働させてい る。現在は2棟で苗木を作り、昨年の出荷数は約9万本。3棟目も建設中だ。管野社長は「北海道はコンテナ苗の普及が遅れているが、自然災害にも影響されず少人数で管理できるため、労働者不足に対応できる技術」と実感する。

森林管理署が今年に入り、網走西部地域での民間業者の利用は一昨年の約2万3千本から、昨年は約2万6千本と急増。道は今後も利用が増えていくとしている。

## 林業の高齢化、人手不足対策に期待

遠軽や湧別で導入 生育にも利点 コストに課題



## 【話し合いの一部】

青木 この時間は、学級で発表する「地域の産業」について考えていきます。

山中 私は、地域で育てられている「コンテナ苗」を紹介するのが良いと思います。

大村 確かに、この地域で「コンテナ苗」を育てているのは知っていますが、「コンテナ苗」って、結局、どんな良さがあるんですか。

山中 「コンテナ苗」は室内で育てるので、水や気温を機械で管理できます。また、室内で育てるので、( A )を取り除く作業も必要ありません。

高橋 そういえば、僕は「コンテナ苗」についてかかれた道新の記事を読んだことがあります。たしか、乾燥には弱いけど、土壤になじみやすいから、裸苗よりも必ず大きく育つと書いてあったはずです。

大村 では、逆に良くないことはあるんですか。

山中 重たくて( B )が大変なことと、価格が高いことです。

青木 「コンテナ苗」についての意見が多いですね。では、もう少し「コンテナ苗」について調べてみましょう。

① ( A ) ( B )に入る言葉を記事の中から書き抜きなさい。

(A)

(B)

②線部の高橋さんの発言は、新聞記事の内容と違う部分があります。正しい内容を次の選択肢から選び記号で答えなさい。

- ア コンテナ苗は土壤になじみにくいが、裸苗よりも大きく育つ割合が高い。
- イ コンテナ苗は土壤になじみにくいが、裸苗よりも必ず大きく育つ。
- ウ コンテナ苗は乾燥に強く、裸苗よりも必ず大きく育つ。
- エ コンテナ苗は乾燥に強く、裸苗より大きく育つ割合が高い。

③線部の青木さんの発言に関して、「コンテナ苗」について調べるには、どのような方法が考えられますか。調べる方法を考えて、3つ書きましょう。